

■コメント

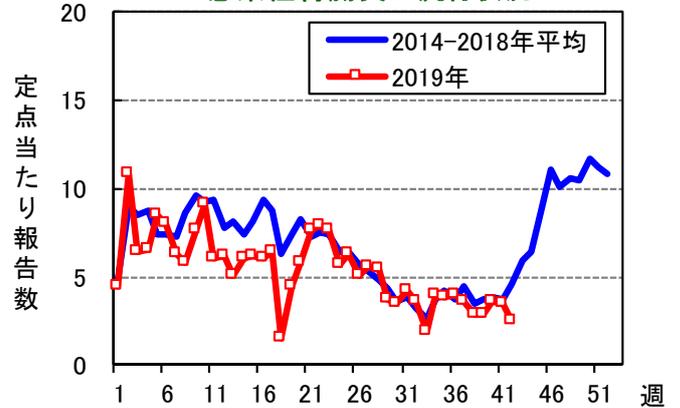
1. 感染性胃腸炎

定点当たり2.54人の報告がありました。
例年11月頃からノロウイルスを原因とする感染性胃腸炎が増加するため、今後の動向に注意が必要です。
手洗いの励行、便・吐物の適切な処理など感染予防対策を心がけましょう。

2. インフルエンザ

11人(定点当たり0.30人、迅速診断キット:すべてA型陽性)の報告がありました。
健康管理に注意し、流行前のワクチン接種、手洗いの励行、咳エチケットなど感染予防対策を心がけましょう。

感染性胃腸炎の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
インフルン	インフルエンザ	11	0.30	0.18		小児科	流行性耳下腺炎	2	0.08	0.67	
小児科	咽頭結膜熱	1	0.04	0.37		眼科	RSウイルス感染症	40	1.67	1.08	↘
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	28	1.17	2.03	↘		急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	61	2.54	4.62	↘	基幹	流行性角結膜炎	10	1.25	0.65	
	水痘	2	0.08	0.33			細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	36	1.50	1.32	↘		無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	7	0.29	0.12			マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.17	
	突発性発しん	11	0.46	0.41			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	5	0.21	0.28			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	2	14	男性(30歳代)・O157、男性(60歳代)・O157・市外
4	重症熱性血小板減少症候群	1	1	男性(70歳代)
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	7	男性(80歳代)
5	後天性免疫不全症候群	1	10	男性(30歳代)・感染者
5	梅毒	2	65	男性(20歳代)、男性(30歳代)
5	百日咳	3	75	男性(10歳未満)、女性(10歳未満)、男性(40歳代)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	第38週 第39週 第40週 第41週 第42週	インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶 血性レ ンサ 球菌咽 頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺 炎	RSウィ ルス 感染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ 肺炎	クラミ ジア肺 炎	(感染性 胃腸炎 (ロタウ イルス)
			報告数	広島市	第38週 第39週 第40週 第41週 第42週	16 6 2 11 11	4 1 8 6 1	25 38 35 44 28	69 69 87 85 61	3 2 1 3 2	36 27 44 47 36	8 10 9 8 7	13 9 4 10 11	27 29 13 12 5	1 1 3 2 2	62 63 64 73 40	- - 1 - -	8 7 8 6 10	- - - - -	- - - - -
定点 当 たり	広島市	第38週 第39週 第40週 第41週 第42週	0.43 0.16 0.05 0.30 0.30	0.17 0.04 0.33 0.25 0.04	1.04 1.58 1.46 1.83 1.17	2.88 2.88 3.63 3.54 2.54	0.13 0.08 0.04 0.13 0.08	1.50 1.13 1.83 1.96 1.50	0.33 0.42 0.38 0.33 0.29	0.54 0.38 0.17 0.42 0.46	1.13 1.21 0.54 0.50 0.21	0.04 0.04 0.13 0.08 0.08	2.58 2.63 2.67 3.04 1.67	- - 0.13 - -	1.00 0.88 1.00 0.75 1.25	- - - - -	- - - - -	0.14 - 0.29 0.29 0.14	- - - - -	- - - - -
	全国	第40週 第41週	0.99 0.90	0.40 0.39	1.66 1.68	3.10 3.00	0.25 0.22	1.82 1.80	0.64 0.54	0.38 0.37	0.61 0.59	0.11 0.09	2.07 1.84	- -	0.80 0.70	0.01 0.01	0.03 0.05	0.38 0.39	- -	0.01 0.01

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の疾患	発熱(40.0)	0	女	2019/08/28	髄液	コクサッキーウイルスB5型
その他の疾患	発熱(38.6) 哺乳不良 活気不良	0	男	2019/09/09	咽頭拭い液 髄液 糞便	コクサッキーウイルスB5型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】ダニ類が媒介する感染症に注意しましょう！

-重症熱性血小板減少症候群(SFTS)／日本紅斑熱／つつが虫病-

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は、SFTSウイルスを保有するマダニに刺咬されることで感染します。潜伏期間は6日～2週間程度で、発熱、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)が出現し、頭痛、筋肉痛、リンパ節腫脹を示すこともあります。患者の多くは、西日本を中心に、マダニの活動が盛んな春から秋にかけて発生しています。

また、日本紅斑熱やつつが虫病も、ダニ類が媒介する感染症です。これらの感染症を予防するため、次のような対策をとることが重要です。

【ダニに咬まれないためのポイント】

- ・山や草むらに入るときは、長袖・長ズボンや帽子の着用、足を完全に覆う靴を履くなど、肌の露出を少なくする。
- ・屋外活動後は入浴し、ダニが付着していないかチェックする。

【ダニに咬まれたときの対処法】

- ・ダニが吸着していた場合は、皮膚科を受診し、除去してもらう。
- ・発熱等の症状が出た場合は、早めに内科等を受診する。

【参考】重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000169522.html>

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2019年第42週(10月14日～10月20日)